

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

2026 年 4 月 岩田望来

□はじめに

こんにちは、岩田です。今月も無事に生きています。

いよいよ 5 月になりました。最終セメスターに突入し、帰国はもう目と鼻の先です。

今回のレポートでは、今のメキシコの気候と先月行った商業演劇「Matilda」の話をしていきたいと思います。

□帰国するのが怖いって話

メキシコの地を踏んだあと、空港から直行でホテルに向かいました。そのときめちゃくちゃ寒くて震え上がった記憶があります笑。「メキシコの夏はこんなに涼しいんだ、日が出ていても半そで＋薄着で過ごせるな」と思っていました。実際、そのときの最高気温は 25℃ もなかったと思います。もちろん昼夜の寒暖差は大きかったですが。

そして今、4-5 月。めちゃくちゃ暑いんです。メキシコシティの過ごしやすい気候に慣れたこの体では 30℃ 付近も耐えられないのです。とにかく暑い。しかも標高があるので紫外線も強い。以前両親に自分が映った映像を送ったら「焼けたね」と言われました……。

この調子で帰国したらどうなるのだろう……本当に溶けてしまうのでは……と思う日々です。今年の日本の夏もどうせ異常気象でしょう。帰国が怖いんです笑。

□「Matilda」観劇

試験後、日墨の同期と一緒に「Matilda」を見に行きました。「Matilda」は「マチルダは小さな大天才」という児童文庫が原作のミュージカルで、同伴してくれた同期いわく日本でも上演されているみたいです。

かなり前から看板がいたところに出ており、メイクが舞台のもの＝演劇！と気づいてからずっと気になっていたのですが、何せ商業演劇（後述）ゆえチケット代が高く、諦めかけていたところ、同伴してくれた同期が「まだ見に行っていないから」と誘ってくれました。

商業演劇は工業資本を獲得することを目的とする演劇のことです。宝塚歌劇団や劇団四季、有名俳優を起用した演劇をイメージするとわかりやすいでしょう。「Matilda」もそのような感じです。チケット代は最低でも 1,800 ペソ以上します。大体 18,000 円くらいです。商業演劇は高いのです……。

ちなみに前回のレポートで書いた「El zoológico del cristal（ガラスの動物園）」は「新劇」というジャンルに近いです。新劇は日本演劇のジャンルのひとつで、興行収入よりも写実的、リアリズムを大切にした演劇のことです。



劇場前に設置されたパネル。この時点でもう好きだった。子役かわいい。

「Matilda」もとても面白かったです。ただ3割しかわかりませんでした。同伴してくれた同期は私よりスペイン語が圧倒的に話せるのですが、それでも5割ほどしかわからなかったと言います。マイク越しの音声だったことや、早いセリフの言い回しが原因かもしれません。ただ内容は児童文学というだけあって展開は単純明快でわかりやすく、私のような、子どもよりギリ低いスペイン語網力保持者でもストーリーと状況は理解できます。

ただ、こんな子どもよりギリ低いスペイン語能力でも演劇を理解できるのは、ストーリーだけが理由ではないでしょう。もしストーリーが理由なら前回の「El zoológico del cristal」は難しすぎて何も理解できていないはずなので……。

ジャンルが全く違う演劇を2つ見て思ったのは、演劇特有の大袈裟な非言語表現が理由なのかもしれないということです。

役者の表情や動き、台詞の言い方、照明、音響、大道具・小道具など、演劇では映画やドラマよりも大袈裟に表現する傾向があります。私が中学・大学で演劇をしていた際によく言われていたのが、「自分が思っている2-3倍は大きく動け」というもの。そうしないと後ろのお客さんまでその役が何をしているのかが届かないからです。

しかもメキシコの演劇は、あくまで私の体感ですが、日本の演劇よりも強烈な気がします。「Matilda」では、主役のマチルダの主人公のクラスメートの男の子が、いじわるな校長先生の指示でチョコレートケーキを完食させられるシーンがあります。そのとき、劇場中にチョコレートの甘い香りが漂ったのです。それだけで彼がどれだけ甘いものを食べさせられているのかを感じられました。



カーテンコール後の集合写真。立ち上がる観客も多かった。

これらの非言語表現が台詞と同じくらい、時にそれ以上に語ってくれるから、スペイン語が不十分な今でも理解できるのかなと思いました。

語学において演劇ってこんなに効果的だとは思っておらず、もっと早く踏み込んでいればよかったと後悔しています。のこり3か月切ってしまいましたが、観られるだけのものは観るつもりです。同伴してくれた同期とはこれから毎週のように劇場に通うことになるでしょう……。

□おわりに

CEPE では nivel 5 を乗り越え、来週からは最後のセメスターとなる nivel 6 に突入します。これから徐々に「最後」という言葉が増えていくと思うと悲しくて仕方ありません。1番最初の、nivel 2 のときに会ったクラスメートも、3人は（おそらく）帰国、1人はコスタリカへ、1人は nivel を下げて、もう1人も帰国間近。一緒に nivel 6 に来てくれる人はいなくなってしまいました。

これから経験するたくさんの「最後」が素敵なものになるよう、残りの約3か月、しっかり楽しんでいきたいと思います。